

特定の研究計画書によらない学術論文

次に示す論文は特定の研究計画書に基づく調査結果ではなく、おおむね外部の研究者との共同研究によるもの、あるいは放影研を著者とする論文、ならびに予備調査に基づく論文である。従って、特定の調査研究課題の章に含めていないので、以下に研究部別にまとめた。

理事

◆ Walsh L, Zhang W, Shore RE, Auvinen A, Laurier D, Wakeford R, Jacob P, Gent N, Anspaugh LR, Schüz J, Kesminiene A, van Deventer E, Tritscher A, del Rosario Pérez M: A framework for estimating radiation-related cancer risks in Japan from the 2011 Fukushima nuclear accident. *Radiat Res* 2014 (November); 182(5):556–72.

臨床研究部 (広島)

◆ Akamatsu S, Hayes CN, Tsuge M, Miki D, Akiyama R, Abe H, Ochi H, Hiraga N, Imamura M, Takahashi S, Aikata H, Kawaoka T, Kawakami Y, Ohishi W, Chayama K: Differences in serum microRNA profiles in hepatitis B and C virus infection. *J Infect Dis* 2015 (March); 70(3):273–87.

◆ Fujino H, Hiroshima Liver Study Group (RERF: Ohishi W): Predictive value of the IFNL4 polymorphism on outcome of telaprevir, peginterferon, and ribavirin therapy for older patients with genotype 1b chronic hepatitis C. *J Gastroenterol* 2014 (December); 49(12):1548–56.

◆ 大石和佳、茶山一彰：IL-6上昇と肝細胞癌リスク増加の関連。日本臨牀 2015 (January); 73(増刊号 1):217–21.

◆ Satoh M, Ohkubo T, Asayama K, Murakami Y, Sakurai M, Nakagawa H, Iso H, Okayama A, Miura K, Imai Y, Ueshima H, Okamura T; Evidence for Cardiovascular Prevention From Observational Cohorts in Japan (EPOCH-JAPAN) Research Group (RERF: Yamada M): Combined effect of blood pressure and total cholesterol levels on long-term risks of subtypes of cardiovascular death: Evidence for Cardiovascular Prevention from Observational Cohorts in Japan. *Hypertension* 2015 (March); 65(3):517–24.

臨床研究部 (長崎)

◆ Haraguchi A, Fujishima K, Ando T, Mori F, Imaizumi M, Abiru N, Yamasaki H, Matsumoto K, Takamura N, Kawakami A: Multiple drug combination of anti-diabetic agents as a predictor for poor clinical response to liraglutide. *Minerva Endocrinol* 2014 (December); 39(4):289–97.

◆ Hayashida N, Imaizumi M, Shimura H, Furuya F, Okubo

N, Asari Y, Nigawara T, Midorikawa S, Kotani K, Nakaji S, Ohtsuru A, Akamizu T, Kitaoka M, Suzuki S, Taniguchi N, Yamashita S, Takamura N: Thyroid ultrasound findings in a follow-up survey of children from three Japanese prefectures: Aomori, Yamanashi, and Nagasaki. *Sci Rep* 2015 (March); 5:9046. doi: 10.1038/srep09046

◆ Ikeoka T, Ando T, Imaizumi M, Ueki I, Usa T, Kawakami A: Moderate to severe nausea in radioactive iodine (RAI) therapy is associated with the RAI dose per body weight and was not prevented by ramosetron. *Endocrine* 2014 (May); 46(1):131–7.

遺伝学部

◆ Kodama Y: Genetic effects of atomic bomb radiation on humans. Sutou S, ed. *Fukushima Nuclear Accident: Global Implications, Long-Term Health Effects and Ecological Consequences*. New York: Nova Science Publishers; 2015 (March), pp 77–88.

◆ Shimamoto A, Kagawa H, Zensho K, Sera Y, Kazuki Y, Osaki M, Oshimura M, Ishigaki Y, Hamasaki K, Kodama Y, Yuasa S, Fukuda K, Hirashima K, Seimiya H, Koyama H, Shimizu T, Takemoto M, Yokote K, Goto M, Tahara H: Reprogramming suppresses premature senescence phenotypes of Werner Syndrome cells and maintains chromosomal stability over long-term culture. *PLoS ONE*; 2014 (November), 9(11): e112900.

放射線生物学／分子疫学部

◆ Kyoizumi S: T-cell receptor mutation assay for monitoring human genotoxic exposure. Sierra LM, Gaivão I, eds. *Genotoxicity and DNA Repair. A Practical Approach*. New York: Humana Press; 2014, pp 159–67.

疫学部 (広島)

◆ Ito Y et al., the J-CANSIS Research Group (RERF: Sugiyama H): Long-term survival and conditional survival of cancer patients in Japan using population-based cancer registry data. *Cancer Sci* 2014 (November); 105(11): 1480–6.

◆ Sakai A, Ohira T, Hosoya M, Ohtsuru A, Satoh H, Kawasaki Y, Suzuki H, Takahashi A, Kobashi G, Ozasa K, Yasumura S, Yamashita S, Kamiya K, Abe M and for the Fukushima Health Management Survey Group: Life as an evacuee after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident is a cause of polycythemia: the Fukushima Health Management Survey. *BMC Public Health* 2014 (December); 14:1318.

◆ Sakai A, Ohira T, Hosoya M, Ohtsuru A, Satoh H, Kawasaki Y, Suzuki H, Takahashi A, Kobashi G, Ozasa K, Yasumura S, Yamashita S, Kamiya K, Abe M and for the Fukushima Health Management Survey Group: White blood cell, neutrophil, and lymphocyte counts in individuals in the evacuation zone designated by the government after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: The Fukushima Health Management Survey. *J Epidemiol* 2015 (January); 25(1):80-7.

統計部

◆ 古川恭治：疫学における研究デザインと統計の重要性。*Clinical Calcium* 2014 (May); 24(5):703-10.

◆ Tekwe CD, Carter RL, Cullings HM, Carroll RJ: Multiple indicators, multiple causes measurement error models. *Stat Med* 2014 (November); 33(10):4469-81.

印刷中の論文

⌘ Crowley KD, Cullings HM, Landes RD, Shore RE, Ullrich RL: Comments on estimating risks of low radiation doses—A critical review of the BEIR VII Report and use of the linear no-threshold (LNT) hypothesis by Edward J. Calabrese and Michael K. O'Connor [Letter to the editor]. *Radiat Res*.

特定の研究計画書によらない学会発表

次の学会発表は特定の研究計画書に関連していないが予備調査に基づくもの、または外部機関との共同研究あるいは全般的な研究情報である。研究部別に以下にまとめた。

主席研究員

❖ 児玉和紀。福島原発事故による被曝レベルならびに健康リスクはどれぐらいの大きさか？第47回疫学研究学会年次総会、2014年6月25-26日。米国ワシントン州シアトル

遺伝学部

❖ 佐藤康成、藤本明洋、浅川順一。全ゲノムシーケンス法によりX線を照射したヒト培養細胞由来のクローンに検出された突然変異。第60回放射線影響学会、2014年9月21-24日。米国ネバダ州ラスベガス

❖ 浅川順一、藤本明洋、佐藤康成、三浦昭子、中本芳子、錦織栄子、今中正明、小平美江子。X線照射ヒト培養細胞クローンDNAの全ゲノム塩基配列解読で検出された突然変異。日本放射線影響学会第57回大会、2014年10月1-3日。鹿児島

❖ 小平美江子、三浦昭子、今中正明、辻隆弘、北村淳、中本芳子、上口勇次郎、中村典、浅川順一。ラット未熟卵子における放射線誘発突然変異：高密度マイクロアレイで検出された突然変異。日本放射線影響学会第57回大会、2014年10月1-3日。鹿児島

疫学部（広島）

❖ 小笹晃太郎、定金敦子、福島若葉、大藤さとこ。ワクチンによるインフルエンザの予防と対策に関する啓発。第73回日本公衆衛生学会総会、2014年11月5-7日。宇都宮

統計部

❖ 中島栄二。分散不均一多変量正規データ解析のための修正GEE1。2014年度日本計量生物学会年会、2014年5月23-24日。東京

❖ Kim YM。二値アウトカムにおける媒介効果を評価するための“Proportion Explained”に基づく簡単な検出力解析法。2014年度北米西部国際計量生物学会／統計数学学会会議、2014年6月15-18日。米国ハワイ州ホノルル

❖ Landes RD。効力比の区間推定量に関する提案。2014年度北米西部国際計量生物学会／統計数学学会会議、2014年6月15-18日。米国ハワイ州ホノルル

❖ 中島栄二。分散不均一正規経時データに対する修正GEE1と線形混合効果モデルの比較：胎内原爆被爆者の9才から14才の経時的収縮期血圧データに対する応用。2014年度統計関連学会連合大会、2014年9月13-16日。東京

❖ Cullings HM。原爆被爆者コホートにおける親の放射線被曝による子供での新規変異リスクの評価。第21回「放射線と健康」国際会議、2014年9月21-24日。米国ネバダ州ラスベガス

所内学術講演およびセミナー

2014年4月1日-2015年3月31日

下記の口頭発表（日付順）が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

藤本明洋 理化学研究所横浜事業所、統合生命医科学研究センター医科学数理研究グループ上級研究員、演題「全ゲノムシーケンスによる遺伝的多様性の包括的解析」4月18日

Tony Riddell 英国イングランド公衆衛生サービス放射線・化学物質・環境汚染研究所疫学部データマネージャー、演題「プルトニウム暴露に関するリスク評価の過去・現在・未来」4月21日

三角宗近 放射線影響研究所統計部研究員、第282回広島統計談話会、演題「Simulation-extrapolationの放影研LSSデータへの適用」4月25日

John B. Little 米国ハーバード大学公衆衛生学教室名誉教授、演題「『非標的効果』は低線量放射線のリスクにどのように影響するか」5月12日

Zhi-Min Yuan 米国ハーバード大学公衆衛生学教室教授、演題「低線量放射線に対する代謝応答」5月12日

伊森晋平 広島大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期、第283回広島統計談話会、演題「高次元データにおける二段階モデル選択手法」6月6日

Jorge Leon-Cruz 米国アイオワ大学公衆衛生学部理学修士、演題「クラスター多項ロジスティック回帰を使った聴力の経時変化の予測」7月7日

ソルヴァン 加藤比呂子 ノルウェー海洋学研究所、第284回広島統計談話会、演題「遺伝子発現差異を用いた乳がん腫瘍Tカテゴリの最適閾値の推定」7月18日

Kaitlin E. Kelly-Reif 日本学術振興会外国人特別研究員（サマー・プログラム）、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校疫学部、演題「広島原爆の残留放射線の地球統計学的推定」8月13日

William F. Morgan 米国パシフィック・ノースウエスト国立研究所生物科学部門放射線生物学・生物物理学部長、演題「低線量放射線研究の論点」9月1日

Curtis C. Harris 米国国立衛生研究所国立がん研究所がん研究センターヒト発がん研究室部長、演題「がんと加齢に関わって複雑に絡み合うmicroRNA、炎症およびp53ネットワークの糸」9月3日

光井富貴子 放射線影響研究所臨床研究部非常勤研究員、演題「ラミブジン耐性B型慢性肝炎症例でのラミブジン・アデフォビル併用療法におけるアデフォビル血中濃度の重要性」9月19日

Reid D. Landes 放射線影響研究所統計部主任研究員、第285回広島統計談話会、演題「非線形混合効果モデルを含む一つのベイジアン校正」10月3日

圓藤吟史 大阪市立大学大学院医学研究科産業医学・都市環境医学分野教授、演題「印刷労働者にみられる胆管がん発症の疫学的解明と原因追求」10月24日

Yueh-Yun Chi 米国フロリダ大学生物統計学部助教授、演題「縦断的研究デザインおよびデータ解析に関する統計的検討」10月28日

藤越康祝 広島大学統計科学研究拠点、広島大学名誉教授、第286回広島統計談話会、演題「多変量線形モデルにおける平均パラメータ行列のランクの推定法と高次元一貫性」10月31日

Gregory D. Sempowski 米国デュークヒトワクチン研究所医学および病理学部教授、共同実験室研究主管、演題「多項目サイトカイン解析による研究強化」11月18日

Nan-ping Weng 米国国立衛生研究所国立加齢研究所免疫学研究室リンパ球分化専攻主任研究員および室長、演題「ヒト免疫系老化に関する遺伝的およびエピジェネティック因子」11月18日

山田 宏 広島大学社会科学部研究科社会経済システム専攻教授、第287回広島統計談話会、演題「I1トレンド・フィルターの調整パラメータ選択」11月28日

中島栄二 放射線影響研究所統計部副部長、第288回広島統計談話会、演題「独立で加法的な古典的およびバークソン共変量誤差を持つ線形回帰」12月12日

Kismet (Anna) Cordova 米国コロラド公衆衛生大学院応用生物統計学・生命情報学、演題「マリファナの使用が性格と不安・憂鬱の関係に及ぼす影響」1月14日

Inge Koch 豪州アデレード大学数理科学研究科准教授、第289回広島統計談話会、演題「プロテオーム質量分析の空間データ解析」1月23日

放影研研究懇話会

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的意見を得ることを目的とする。

Eric J. Grant 広島疫学部副部長、演題「原爆被爆者の子どもにおける死亡リスク：62年間の追跡による更新」4月18日

中島栄二 統計部副部長、演題「分散不均一多変量正規データ解析のための修正 GEE1：原爆胎内被爆者の9歳から14歳の経時的収縮期血圧データへの応用」5月16日

小平美江子 遺伝学部遺伝生化学研究室研究員（嘱託）、演題「自然突然変異と放射線誘発突然変異は識別できるか？マウスで検出した自然及び放射線誘発突然変異切断点の分子レベルの解析」7月18日

多賀正尊 放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室研究員、演題「原爆被爆者肺がんにおける *ALK* 融合遺伝子の解析」8月22日

山田美智子 広島臨床研究部放射線科長、演題「AHSにおける測定値の縦断的解析」9月19日

Eric J. Grant 広島疫学部副部長、演題「原爆被爆者における固形がん罹患率：2009年までの最新の解析結果」10月17日

Reid D. Landes 統計部主任研究員、演題「比推定のためのブートストラップおよびベイズ手法の実例について」11月21日

佐藤康成 遺伝学部研究員、演題「全ゲノムシーケンス法によりX線を照射したヒト培養細胞由来のクローンに同定された突然変異」12月19日

梶村順子 放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室任期付研究員、演題「ヒト循環樹状細胞に及ぼす放射線被曝と加齢の影響」1月16日

放影研役職員の受賞

2014年4月1日－2015年3月31日

三重県津市で開催された地域がん登録全国協議会第23回学術集会において、**砂本三智夫**広島疫学部病理学研究室課長補佐と**永吉明子**長崎疫学部腫瘍組織登録室課長補佐が、地域がん登録における一定の技術レベルを持つ実務者として「平成26年度実務功労者表彰」を受賞した。6月13日長年にわたるラトビアからの医療関係者や研究者への研修支援およびチェルノブイリ退役軍人の健康管理への協力に対し、ラトビア連合チェルノブイリ協会から**放影研**に名誉賞が贈呈された。放影研を代表して、林奉権放射線生物学／分子疫学部副部長が、ラトビアのリガ市で行われた授賞式に出席した。10月13日

労働衛生学・産業医学の研究に長年従事し、労働者の健康度指標の開発や産業保健活動の基礎理論の確立に貢献したことに対し、広島市で開催された第73回全国産業安全衛生大会総会において、**大久保利晃**理事長が「中央労働災害防止協会 平成26年度顕功賞」を受賞した。10月22日

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

外部機関名称	件数	研究資金 (資金拠出機関からの入金額)
厚生労働省	5	¥4,100,000
独立行政法人 日本学術振興会 (文部科学省所管の独立行政法人)	14	¥56,320,000
公益財団法人 原子力安全研究協会 (環境省委託事業の受託機関)	1	¥4,419,163
公益財団法人 喫煙科学研究財団	1	¥2,000,000
国立遺伝学研究所	1	¥176,000
公益財団法人 日本心臓財団	1	¥300,000 (前年度繰越金)
米国立がん研究所 (NCI) 契約	1	¥17,340,000
米国立アレルギー感染症研究所	1	¥169,700,000
総 合 計	25	¥254,355,163

注) ・間接費を含む。
 ・研究分担者の配分額を含む。

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究担当者	期間	研究資金
臨床研究部 (広島) 特定健診・保健指導におけるメタボリック クシンドロームの診断・管理のエビデン ス創出に関する横断・縦断研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 門脇 孝 東京大学大学院医学系研究科教授	山田 美智子 研究協力者 立川 佳美	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥1,100,000
大規模コホート共同研究の発展による危 険因子管理の優先順位の把握と個人リス ク評価に関するエビデンスの構築	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 岡村 智教 慶應義塾大学医学部教授	山田 美智子	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥1,800,000
放射線被曝が動脈硬化性疾患発症に及ぼ す影響	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 立川 佳美 放射線影響研究所臨床研究部健診科 副主任研究員		2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥800,000 間接経費 ¥240,000
禁煙による動脈硬化性疾患予防効果は禁 煙後の体重変化の影響を上回るか—30 年の縦断調査に基づき検討	公益財団法人 日本心臓財団 アステラス・ファイザー 「動脈硬化 Update」研究助成 研究代表者 高橋 郁乃 放射線影響研究所臨床研究部臨床検査 査科研究員		2013 年 9 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥300,000 前年度からの繰 越 (平成 26 年 度に新たな研究 費の交付はな し)
遺伝学部 高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた 原爆放射線の遺伝的影響調査	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (B)」 研究代表者 小平 美江子 放射線影響研究所遺伝学部遺伝生 化学研究室嘱託研究員	浅川 順一 古川 恭治 (統計部) 連携研究者 中村 典 (同部顧 問)	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥700,000 間接経費 ¥210,000
次世代シーケンサーを用いた放射線の ラット未熟卵母細胞に及ぼす遺伝的影響 評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 佐藤 康成 放射線影響研究所遺伝学部遺伝生 化学研究室研究員	小平 美江子 浅川 順一 連携研究者 中村 典 (同部顧 問)	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥300,000 間接経費 ¥90,000
胎児期被ばくマウスに生じる染色体異常 の組織による違いの解明	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 濱崎 幹也 放射線影響研究所遺伝学部細胞遺伝 学研究室研究員		2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,000,000 間接経費 ¥300,000

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金
遺伝学部 <i>In vivo, in situ</i> 突然変異検出系を用いた 環境および放射線リスク評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (S)」 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部副部長	濱崎 幹也	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥27,200,000 間接経費 ¥8,160,000 他機関 (東京大 学、大阪大学、 茨城大学) の研 究分担者への配 分額は、上記の 研究資金に含ま れている。
放射線により生じる修復不能な DSB の 特異的定量法開発	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「挑戦的萌芽研究」 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部副部長	見玉 喜明	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥800,000 間接経費 ¥240,000
ビキニ水爆関係資料の整理に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「特別研究事業」 研究代表者 明石 真言 独立行政法人放射線医学総合研究所 理事	見玉 喜明	2015 年 1 月 16 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥200,000
放射線生物学／分子疫学部 原爆被爆者における免疫老化とその他の 放射線被曝後影響の調査	米国国立アレルギー感染症研究所 主任研究者 敬 放射線影響研究所顧問 共同主任研究者 楠 洋一郎 放射線影響研究所放射線生物学／ 分子疫学部長、林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／ 分子疫学部副部長	Robert L. Ullrich (主席研究員) 京泉 誠之 伊藤 玲子 梶村 順子 吉田 健吾 大石 和佳 (臨床研究部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部)	2009 年 10 月 1 日 - 2014 年 9 月 30 日	直接経費 ¥157,600,000 間接経費 ¥12,100,000

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループの名前と場所および委託組織のチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究分担者	期間	研究資金
放射線生物学／分子疫学部 原爆被曝者の長期追跡に基づく炎症関連疾患発生の分子疫学研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 (B)」 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長	連携研究者 中地 敬 (放影研顧問)、小川 貴彦	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥4,300,000 間接経費 ¥1,290,000 東京大学の研究分担者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
喫煙の免疫および炎症関連生体指標と生活習慣病発生に及ぼす影響の分子疫学研究	公益財団法人 喫煙科学研究財団 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長	研究協力者 高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 大石 和佳 (臨床研究部) 三角 宗近 (統計部) 研究参加者 村上 秀子	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥2,000,000
低線量放射線は心血管疾患発症の原因と成りうるか？一動物実験による検証	公益財団法人 日本原子力安全研究協会 環境省「平成 26 年度原子力災害影響調査等事業 (放射線の健康影響に係る研究調査事業)」 研究代表者 丹羽 保晴 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室副主任研究員	伊藤 玲子	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,200,000 間接経費 ¥360,000 埼玉医科大学への研究分担者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
放射線甲状腺がんにおける EML4-ALK 融合遺伝子の生物学的役割に関する研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」 研究代表者 濱谷 清裕 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室研究員			
韓国と日本の婦人科がん発生および放射線治療成果との関連の分子疫学研究	日本学術振興会 二国間交流事業 韓国との共同研究 (NRF) 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長	連携研究者 大石 和佳 (臨床研究部)、中地 敬 (放影研顧問) 研究協力者 胡 軼群、Kim Young Min (統計部)	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥1,200,000

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループの名前と場所および委託組織のチーフまたは担当の主任研究者	放影研における研究担当者	期間	研究資金
放射線生物学／分子疫学部 ヒト免疫老化表現型を特徴付けるトランスクリプトームおよび分子経路解析	国立遺伝学研究所 2014 年度大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 「共同研究 (A)」 研究代表者 吉田 健吾 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室研究員	楠 洋一郎 三角 宗近 (統計部)	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥176,000
肺がんに関与する融合遺伝子の形成に対する放射線影響の解析	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 多賀 正尊 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物研究室研究員	濱谷 清裕 伊藤 玲子	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,300,000 間接経費 ¥390,000
疫学部 (広島) 原爆被爆者におけるがんの疫学的研究支援	米国国立がん研究所 (NCI) 契約米国メリーランド州ベセスダ、米国立がん研究所 NCI 契約 HHSN261201400009C 主任研究者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部部長	研究管理者 Eric J. Grant、 Harry M. Cullings (統計部)	2014 年 4 月 1 日 - 2019 年 7 月 31 日	直接経費 ¥11,960,000 間接経費 ¥5,380,000
原爆被爆者の乳がんに関する免疫組織学的疫学研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部部長	小笹 晃太郎	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥0 間接経費 ¥0 補助事業期間延長により、平成 25 年度の未執行額 (¥289,124) を使用。平成 26 年度に新たな助成金の交付はなし。
ワクチンの有効性・安全性評価と VPD (vaccine preventable diseases) 対策への適用に関する分析疫学研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」 研究代表者 廣田 良夫 医療法人相生会臨床疫学研究センター長	小笹 晃太郎	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥500,000

平成 26 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループの名称と場所および委託組織の名前と場所および研究担当者	放影研における研究分担者	期間	研究資金
疫学部 (広島) 都道府県がん登録データの全国集計と既存がん統計の資料の活用によるがん及びがん診療動向把握の研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「がん対策推進総合研究事業」 研究代表者 松田 智大 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部地域がん登録室長	小笹 晃太郎	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	¥500,000
情報技術部 セミパラナンスク旧核実験場近郊住民を対象とした疫学解析用統一データベース構築	日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 (B)」 研究代表者 片山 博昭 放射線影響研究所情報技術部長		2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥3,700,000 間接経費 ¥1,110,000 他機関 (広島大学、金沢大学、筑波大学) の研究分担者への配分額は、上記の研究資金に含まれていない。
カザフ核実験場周辺住民の放射性降下物被曝の実態解明—線量評価及び健康影響解析	日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 (A)」 研究代表者 星 正治 広島大学平和科学研究センター名誉教授	片山 博昭	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥300,000 間接経費 ¥90,000
その他 放射線被曝は循環器疾患のリスクを上昇させるか？—動物実験による検証	日本学術振興会 科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」 研究代表者 高橋 規郎 放射線影響研究所主席研究員室付顧問	大石 和佳 (臨床研究部) 丹羽 保晴 (放射線生物学/分子疫学部) 連携研究者 村上 秀子 (放射線生物学/分子疫学部)	2014 年 4 月 1 日 - 2015 年 3 月 31 日	直接経費 ¥800,000 間接経費 ¥240,000
総 合 計				¥254,355,163

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研における研究者	放射線研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) NIHON-SEA (Nippon-Honolulu-Seattle) プログラム (認知症の罹患率と発生率)	山田 美智子		笠置 文善 (放射線影響協会) 佐々木 英夫 (安田女子大学) 三森 康世 (広島国際大学) White L (ホノルル加齢調査) Larson E (米国シアトル保健協同組合健康調査センター)	1992
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのコホート内症例対照研究	大石 和佳	Grant EJ (疫学部) Cologne JB (統計部) 中地 敬 (放射線顧問) 中島 栄二 (統計部)	Sharp GB (米国立アレルギー感染症研究所) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金) Stevens RG (米国立コネチカット大学保健センター) Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所)	2002
凍結血清およびゲノム DNA を用いた萎縮性胃炎および胃がんに関する症例対照研究：胃がんに伴う慢性胃炎の新たなバイオマーカーの同定	大石 和佳	植田 慶子 Cullings HM (統計部) 林 春雅 (放射線生物学/分子疫学部) 光井 富貴子 飛田 あゆみ (長崎臨床疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
遺伝的要因は近距離被爆生存者の集団的偏りをもたらすか？—同一の遺伝的要因が 40-50 年後の AHS 対象者で高炎症状態および心筋梗塞のリスク要因となった可能性を検証する	大石 和佳	高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床疫学部)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2005
原爆被爆者における炎症とがん発生率	立川 佳美	Cologne JB (統計部) 中島 栄二 (統計部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子	Little MP (米国立衛生研究所)	2005

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 非がん死亡における中間危険因子	William L (米国ワシントン大学)	高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 児玉 和紀 (主席研究員)	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 赤星 正純 (恵寿病院) Kopecky KJ (米国ワシントン大学、フレッド ハッチソンがん研究センター) Davis S (米国ワシントン大学、フレッドハッ チンソンがん研究センター)	2006
肥満度指数 (BMI) と死亡率	Thun M (米国がん協会)	大石 和佳 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長兼業務執行 理事)		2008
被爆者の緑内障発症および大動脈動脈硬化に関 連する網膜保存画像を用いた標準化測定による 網膜細動脈硬化および加齢性黄斑変性の評価	高橋 郁乃	三角 宗近 (統計部) 中島 栄二 (統計部)	柳 昌秀 (広島大学) 板倉 勝昌 (広島大学) 川崎 良 (山形大学) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 木下 博文 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 隈上 武志 (長崎大学)	2010
広島成人健康調査対象集団における体組成に関 する調査	立川 佳美	三角 宗近 (統計部) 大石 和佳 山田 美智子	藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) Harris TB (米国加齢研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会)	2010
臨床研究部 (長崎) 潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死 亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個 人対象者総合解析	Rodondi N (スイス、ベルン大 学インゼルスピタル大学病院)	今泉 美彩	Gussekloo J (オランダ、ライデン大学医学セ ンター)	2008
被爆者における慢性腎疾患と心血管疾患との関 連	春田 大輔	高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 今泉 美彩 山田 美智子 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) 三角 宗近 (統計部)	恒任 章 (長崎大学) 世羅 至子 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 赤星 正純 (恵寿病院)	2009

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) QT 短縮の遺伝子基盤に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	春田 大輔 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ	正純 (恵寿病院) 前村 浩二 (長崎大学)	2011
進行性心臓伝導障害の疫学と遺伝子異常に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	春田 大輔 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 中島 栄二 (統計部)	正純 (恵寿病院) 前村 浩二 (長崎大学)	2012
日本人における体重変動とがん、循環器疾患の罹患および死亡との関連	南里 明子 (国立国際医療研究センター)	春田 大輔 (広島臨床研究部) 高橋 郁乃 (広島疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (広島疫学部) Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ	村上 哲也 (国立国際医療研究センター) 荒木 由布子 (久留米大学) 赤星 正純 (恵寿病院)	2012
基準範囲内の血清 TSH と冠動脈心疾患のリスク	Åsvold BO (ノルウェー科学技術大学)	今泉 美彩		2012
血清 TSH 値と脳卒中のリスク—「潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析」の補遺	van Dijk B (オランダ、エラスムスメディカルセンター)	今泉 美彩	Chaker L (オランダ、エラスムスメディカルセンター) Peeters RP (オランダ、エラスムスメディカルセンター) Franco O (オランダ、エラスムスメディカルセンター)	2013
潜在性甲状腺機能異常と骨有害事象—「潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析」の補遺	Blum MR (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院)	今泉 美彩	da Costa B (スイス、ベルン大学社会学研究所) Rodondi N (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院)	2013
甲状腺機能と腎機能の経時的進行の関連	den Elzen W (オランダ、ライデン大学医療センター)	今泉 美彩 大石 和佳 (広島臨床研究部)	Meuwese CL (オランダ、ライデン大学医療センター) Gusseklou J (オランダ、ライデン大学医療センター) Rodondi N (スイス、ベルン大学インゼルスピタル大学病院)	2013

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) 原爆被爆者における慢性腎臓病およびアルブミン尿と心血管疾患との関連	世羅 至子 (長崎大学)	飛田 あゆみ 春田 大輔 今泉 美彩 高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 山田 美智子 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 今泉 美彩	赤星 正純 (恵寿病院) 川上 純 (長崎大学)	2014
甲状腺機能低下と貧血の関連、および有害転帰に及ぼす両病態の影響：RP-A10-08 (潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析) の補遺	den Elzen W (オランダ、ライデン大学医療センター)	今泉 美彩		2014
原爆被爆者における放射線被曝と心房細動の関係についての検討	春田 大輔	Landes RD (統計部) 飛田 あゆみ 今泉 美彩 市丸 晋一郎 高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部)	世羅 至子 (長崎大学) 赤星 正純 (恵寿病院) 前村 浩二 (長崎大学)	2014
遺伝学部 原爆被爆者における早発性の乳がんおよび卵巣がんにおける分子学的変化	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Land CE (米国立がん研究所)	平井 裕子		2001
ラット卵母細胞における突然変異の検出	上口 勇次郎 (旭川医科大学)	浅川 順一		2003
長崎の原爆被爆者から得られた歯試料の ESR 測定	三根 真理子 (長崎大学)	平井 裕子 中村 典 (同部顧問)		2005
ES 細胞のターゲットティング	末盛 博文 (京都大学)	野田 朝男		2007
放射線の遺伝的影響測定モデル動物の作成	三谷 啓志 (東京大学大学院)	野田 朝男		2009
放射線のマウスオス生殖細胞に及ぼす遺伝的影響評価：高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた調査	島田 義也 (放射線医学総合研究所)	浅川 順一		2009

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
遺伝学部 日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ヘテロ保有者における非黒色腫皮膚がんリスクの評価	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Kraemer KH (米国立がん研究所)	平井 裕子 中村 典 (同部顧問)		2009
福島県浪江町住民の生物学的線量評価	吉田 光明 (弘前大学)	児玉 喜明 濱崎 幹也		2013
次世代シーケンサーを用いた放射線のマウス成熟卵母細胞に及ぼす遺伝リスク評価	島田 義也 (放射線医学総合研究所)	佐藤 康成		2013
次世代シーケンサーを用いた放射線のマウス成熟卵母細胞に及ぼす遺伝リスク評価	瀬々 潤 (産業技術総合研究所)	佐藤 康成		2013
放射線生物学/分子疫学部 散発性肺癌がんにおける遺伝子変異と発現の研究	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学)	中地 敬 (放影研顧問) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝 (同部顧問)		2002
日本人集団における様々な遺伝子多型の頻度調査	吉田 輝彦 (国立がんセンター)	中地 敬 (放影研顧問) 楠 洋一郎 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝 (同部顧問)		2002
胃がんの遺伝的感受性の研究	安井 弥 (広島大学)	林 奉権 中地 敬 (放影研顧問) 伊藤 玲子 今井 一枝 (同部顧問)		2002
細胞への放射線影響における低酸素応答遺伝子 HIF1 α の役割に関する研究	谷本 圭司 (広島大学)	中地 敬 (放影研顧問) 今井 一枝 (同部顧問)	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (広島)	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子	有廣 光司 (広島大学) 林 雄三 (広島市立安佐市民病院)	2002

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 細胞膨化致死毒素による末梢リンパ球アポトーシス誘導の研究	管井 基行 (広島大学) 小原 勝 (広島大学)	楠 洋一郎 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問)		2001
放射線と抗がん剤の組み合わせによるアポトーシス誘導におけるギヤップ結合の役割に関する研究	小川 貴彦 (県立広島病院) 林 奉権	中地 敬 (放射線顧問)	Trosko JE (米国ミシガン州立大学)	1998
遺伝子改変マウスの TCR 遺伝子および HPRRT 遺伝子変異の解析	笹谷 めぐみ (広島大学原爆放射線医学研究所)	楠 洋一郎 中地 敬 (放射線顧問)	神谷 研二 (広島大学原爆放射線医学研究所)	2004
散発性乳がんの発生・進展の分子生物学的研究	林 慎一 (東北大学)	中地 敬 (放射線顧問) 今井 一枝 (同部顧問) 林 奉権	江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
がん細胞のアポトーシスにおける細胞間コミュニケーションの研究	林 奉権	胡 鞅群	小川 貴彦 (県立広島病院)	2005
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生への放射線影響の研究	林 奉権		林 幾江 (広島大学)	2006
原爆被爆者における肺および大腸がんの研究	伊藤 玲子	多賀 正尊 濱谷 清裕 中地 敬 (放射線顧問)	安井 弥 (広島大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2004
原爆被爆者における胃がんの研究	安井 弥 (広島大学)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問)		2006
末梢リンパ球を用いた放射線誘発遺伝的不安定性の機序に関する研究	本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所)	楠 洋一郎 濱崎 幹也 (遺伝学部)		2008
散発性胃がんの臨床および分子病理学的解析	安井 弥 (広島大学)	伊藤 玲子 中地 敬 (放射線顧問)		2004
放射線症例研究のための新規統計モデルの開発	和泉 志津恵 (大分大学)	中地 敬 (放射線顧問) 古川 恭治 (統計部)		2006

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学/分子疫学部 原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (長崎)	濱谷 清裕	早田 みどり (長崎疫学部)	中島 正洋 (長崎大学) 関根 一郎 (長崎県赤十字血液センター) (ほか)	2005
散発性胃癌における炎症性サイトカインの役割	菅沼 雅美 (埼玉県立がんセンター)	今井 一枝 (同部顧問) 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問)		2006
原爆被爆者の肺がんの分子疫学的特徴の研究	多賀 正尊	濱谷 清裕 伊藤 玲子	Harris CC (米国立がん研究所) 安井 弥 (広島大学) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
アジア太平洋地域における心血管疾患の共同コホート研究	Asian Pacific Cohort Studies Collaboration (オーストラリア、ジョージ国際健康研究所)	中地 敬 (放射線顧問) 今井 一枝 (同部顧問)		1996
幹細胞への放射線および薬物影響の生物学	林 奉権	中地 敬 (放射線顧問)	林 幾江 (広島大学)	2002
甲状腺腫瘍の分子解析	武市 宣雄 (武市クリニック)	濱谷 清裕 中地 敬 (放射線顧問) 楠 洋一郎		2008
低線量放射線により循環器疾患が誘発されるかを動物モデルを用いて検討する	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 楠 洋一郎		2012
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	稲葉 俊哉 (広島大学)	丹羽 保晴 高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 楠 洋一郎		2011
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	田中 公夫 (環境科学技術研究所)	高橋 規郎 (主席研究員室付顧問) 村上 秀子 丹羽 保晴 楠 洋一郎	小木曾 洋一 (環境科学技術研究所) 田中 聡 (環境科学技術研究所)	2011

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研究における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 ゲノム損傷応答と造血幹細胞機能にかかわる分子経路探索法の確立	吉田 健吾	京泉 誠之 林 奉権 梶村 順子 三角 宗近 (統計部) 中地 敬 (放射線顧問) 楠 洋一郎	松井 啓隆 (広島大学) 金井 昭教 (広島大学) 稲葉 俊哉 (広島大学) 近藤 賢史 (広島大学) 池尾 一穂 (国立遺伝学研究所) 五條堀 孝 (国立遺伝学研究所)	2013
次世代シーケンシング技術を用いた所内ボランティア末梢血 T 細胞受容体レパトアについての縦断的解析	吉田 健吾	Cologne JB (統計部) 三角 宗近 (統計部) 林 奉権 楠 洋一郎	松井 啓隆 (広島大学) 金井 昭教 (広島大学) Robins H (米国フレッドハットチンソンがん研究センター)	2014
疫学部 (広島) LSS 集団における放射線のがん罹患リスク (幾つかの部位別がん研究を含む) 1958 年 - 2005 年	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 小笹 晃太郎	Cullings HM (統計部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部) 船本 幸代 (統計部) Grant EJ 杉山 裕美 坂田 律 定金 敦子	Brenner A (米国立がん研究所) Neta G (米国立がん研究所) Cahoon EK (米国立がん研究所) Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所) Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	2012
原爆被爆者における放射線治療と第二原発がんリスクの関連	吉永 信治 (放射線医学総合研究所)	早田 みどり (長崎疫学部) 森脇 宏子 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 片山 博昭 (情報技術部) 杉山 裕美 定金 敦子 小笹 晃太郎	赤羽 恵一 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 島田 義也 (放射線医学総合研究所) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会) 笠置 文善 (放射線影響協会)	2007
放射線に関連した甲状腺がんの第二回共同解析	Veiga L (米国立がん研究所) Lubin J (米国立がん研究所)	坂田 律 杉山 裕美 Shore RE (副理事長兼業務執行理事)		2008

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) アジア人コホート研究コンソーシアムへの参画 提案プロジェクト1: 喫煙・飲酒・肥満度とまれ ながんのリスク	井上 真奈美 (東京大学)	Grant EJ 定金 敦子 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長兼業務執行 理事)		2010
食事および膀胱がんの関係に関する統合プロジェ クトへの参加提案	Zeegers M (オランダ、マース トリヒト大学)	Grant EJ 小笹 晃太郎 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部)		2012
胆道がん統合プロジェクトへの参加提案	Koshiol J (米国立がん研究所)	Grant EJ 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 大石 和佳 (臨床研究部) 小笹 晃太郎		2013
脳および中枢神経系の放射線関連原発新生物に ついての統合解析への参加提案	Brenner A (米国立がん研究 所)	坂田 律 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 Shore RE (副理事長兼業務執行 理事)	Inskip P (米国立がん研究所)	2013
閉経前乳がんの統合解析への参加提案	Swerdlow A (英国がん研究所) Nichols HB (米国立環境健康 科学研究所)	定金 敦子 Grant EJ 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 大石 和佳 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 小笹 晃太郎		2014
疫学部 (長崎) 長崎原発被曝者に発生した病理組織学的診断根 拠のある多重がん症例の同定	中島 正洋 (長崎大学)	早田 みどり		2007

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (長崎) 長崎県がん登録に基づく放射線治療環境と患者予後についての研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県がん登録に基づく患者受療動態から見た医療圏の研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
長崎県の小児がん患者における治療医療機関の集中化と生存率についての検討	大野 ゆう子 (大阪大学)	早田 みどり		2008
統計部 原爆被爆者のデータにおける染色体異常、放射線の初期影響および後影響に関する同時解析	Stram D (米国南カリフォルニア大学)	Cologne JB Cullings HM 古川 恭治 三角 崇近		2007
がんリスクの機序モデル	Dekkers F (オランダ国立公衆衛生環境研究所) Bijwaard H (オランダ国立公衆衛生環境研究所)	Cullings HM		2007
がんリスクの機序モデル	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM		2008
リスク回帰に対する線量不確実性の影響を評価するためのシミュレーション法	Pierce D (米国オレゴン保健科学大学)	Cullings HM		2008
胎内被爆者または若年被爆者におけるがん罹患率のリスク評価	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	Cullings HM 見玉 和紀 (主席研究員) 早田 みどり (長崎疫学部) Shore RE (副理事長兼業務執行理事)	陶山 昭彦 (富永病院)	2007
歯エナメル質 ESR 測定値の遮蔽カメラと臓器線量への換算のための特殊モンテカルロ計算法	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国 LEIDOS, Inc.)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
スベクトルデコンボリューション、新手法および新情報を用いた、放影研の歯の ESR 測定データの更新	中村 典 (遺伝学部顧問) Egbert S (米国 LEIDOS, Inc.)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 個々のデータを用いたリスク評価のバイズ的アプローチ	Little MP (米国立衛生研究所)	Cullings HM 古川 恭治 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 (疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 陶山 昭彦 (富永病院) 笠置 文善 (放射線影響協会) Molitor J (米国南カリフォルニア大学)	2007
放射線被曝およびバイオマーカーのための関数法	Wang CY (米国フレッドハッチンソンがん研究センター)	Cullings HM	角間 辰之 (久留米大学) 荒木 由布子 (久留米大学)	2007
放射線、炎症および特定の放射線・炎症誘発健康影響に対する因果モデルの適用	Cologne JB	中島 栄二 Kim Y-M 坂田 律 (疫学部) 高橋 郁乃 (臨床疫学部) 山田 美智子 (臨床疫学部)		2007
セミパラメトリック生存外挿法：放射線のコホートを用いたモデルの検証	方 敬泰 (台湾大学疫学研究研究所)	古川 恭治 Cullings HM 早田 みどり (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	王 榮德 (台湾大学公衆衛生学院) 黄 景祥 (台湾中央研究院) 笠置 文善 (放射線影響協会) 陶山 昭彦 (富永病院)	2009
長期体重変動とがんおよび心血管疾患罹患および死亡に関するコホート研究	南里 明子 (国立国際医療センター研究所) 溝上 哲也 (国立国際医療センター研究所)	春田 大輔 (長崎臨床疫学部) Cologne JB	荒木 由布子 (久留米大学)	2009
コホート内症例対照調査における放射線と中間リスク因子の同時効果に関する評価方法	Cologne JB	古川 恭治 Grant EJ (疫学部) 大石 和佳 (臨床疫学部) 中地 敬 (放射線顧問) Cullings HM	和泉 志津恵 (大分大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 藤原 佐枝子 (広島原爆障害対策協議会)	2008
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのコホート内症例対照研究	大石 和佳 (臨床疫学部)	Cologne JB Grant EJ (疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 中地 敬 (放射線顧問) 中島 栄二	Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所) Sharp GB (米国立アレルギー・感染症研究所) Stevens RG (米国コネチカット大学保健センター) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金)	2002

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 急性放射線被曝後のがんリスク推定：中性子線量の影響とリスク係数のノンパラメトリック解析	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン大学/国立環境保健研究所) Walsh L (ドイツ放射線防護連邦局)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：リスク推定値への放射線生物学的効果の影響	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Eidemüller M (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所)	2008
放射線と心血管疾患の関連における内臓脂肪の役割と効果	Cullings HM	飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 今泉 美彩 (長崎臨床研究部) 中島 栄二	Carter R (米国バツフアロー大学) 赤星 正純 (患寿病院)	2011
小児期に低中線量外部電離放射線に被曝したヒト集団に見られる造血器腫瘍	Little MP (米国立衛生研究所)	Kim Y-M 小笹 晃太郎 (疫学部) Shore RE (副理事長兼業務執行理事)	Adams MJ (米コロチエスター大学医歯学部) Zablotska L (米サンフランシスコ大学) de Vathaire F (仏ギユスター・ヴ・ルシイ研究所) Sadtzki S (イスラエル、ガートナー疫学・保健政策研究所) Wakeford R (英国マンチェスター大学) Lee C (米国立がん研究所) Brenner AV (米国立がん研究所) Berrington de Gonzalez A (米国立がん研究所) Morton L (米国立がん研究所) Doody M (米国立がん研究所) Pearce M (英国ニューカッスル・アポン・タイン大学) Ronckers CM (オランダ、アムステルダム大学) Holmberg E (スウェーデン、ソルグレンスカ大学病院) Lundell M (スウェーデン、カロリンスカ病院)	2014

平成 26 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
情報技術部 ヒト遺伝子解析用データベースの構築とユウ ザー・インタフェースの開発、およびディク ショナリーシステムの構築に関する共同研究	Slezak T (米国ローレンス・リ バモア国立研究所)	片山 博昭		1996

国際協力活動

放影研役職員の国際協力関係活動への参加

1. 世界保健機関（WHO）関連

放影研は、1979年に放射線の人体影響に関するWHO研究協力センターに指定され、1988年からはWHO放射線緊急事故医学的対応・救援ネットワーク（REMPAN）のメンバーになっている。本年度の活動として、2014年5月にドイツのビュルツブルグで開催された第14回WHO/REMPAN協力センター会議に児玉和紀主席研究員（5-11日）と片山博昭情報技術部長（7-9日）が出席した。片山情報技術部長は、同年11月13-14日にフィリピンのマニラで開催されたWHO/WPRO（西太平洋地域事務局）会議へも出席した。

2. 原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）関連

Roy E. Shore 副理事長が、健康影響に関する文献評価のためUNSCEARの福島関連追跡プロジェクトに参加した。

児玉和紀主席研究員が、UNSCEAR国内対応委員会（2014年7月1日、2015年3月27日、東京）をはじめ、第61回国連科学委員会全体会合（2014年7月21-24日、オーストリアのウィーン）、UNSCEARと日本政府、UNSCEAR日本政府代表団関係者との福島事故影響評価に関するフォローアップについての打ち合わせ会議（2014年11月10日-11日、東京）、UNSCEAR国内対応委員会のメンバーらと今後の対応についての協議（2014年11月20日、東京）に出席した。このうち、2014年7月1日と2015年3月27日に東京で開催されたUNSCEAR国内対応委員会には、小笹晃太郎疫学部長も参加した。

3. 国際放射線防護委員会（ICRP）関連

Roy E. Shore 副理事長が、ICRPのDDREF（線量・線量率影響因子）に関する報告書を作成するタスクグループに参加した。

4. 国際原子力機関（IAEA）関連

厚生労働省国際交流調査研究事業として、児玉和紀主席研究員が2015年3月17-19日、オーストリアのウィーンにあるIAEAを訪問し、放影研とIAEAとの協力関係について意見交換を行った。

5. 国際原子力機関（IAEA）と放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）との協働事業関連

放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）が国際原子力機関（IAEA）の「協働センター」に指定されたことを記念して、2014年5月26日に「世界に貢献するHICARE」と題したセミナーを開催した。大久保利晃放影研理事長（HICARE会長）が開会のあいさつを行うとともに、児玉和紀主席研究員がABCC-放影研の歴史および研究結果についてHICAREの国際貢献と関連付けて紹介した。

2014年6月10-13日には、児玉喜明遺伝学部長がオーストリアのウィーンで開催されたIAEA-HICARE協働事業、生物学的線量測定強化に関する第2回研究共同会議に出席した。

HICARE/IAEA研修コース（IAEA・アジア原子力地域協力協定に基づく地域研修コース：最先端の放射線治療技術）が広島で2015年1月19日から22日まで開催され、27人が参加した。放影研で行われた研修では、児玉主席研究員が講師を務めた。

6. 国際がん研究機関関連

カザフスタンのセメイで2015年3月30日から4月1日まで開催されたSEMI-NUC会議（セミパラチンスク核実験場周辺住民における前向きコホート調査-実行可能性評価）に片山博昭情報技術部長が出席した。

7. セミパラチンスク（カザフスタン）関連

日本学術振興会／文部科学省・科学研究費助成事業として、片山博昭情報技術部長が以下の会議と打ち合わせに出席した。

- SEMI-NUC 会議（2014年4月9-10日、ドイツのミュンヘン）
- カザフスタン放射線医学環境研究所での研究打ち合わせ（2014年8月25-27日、カザフスタンのセミパラチンスク）
- 第1回島根・セメイ国際シンポジウム（2015年1月24日、島根大学）
- ドイツ連邦放射線防護機関の Bernd Grosche 博士との研究打ち合わせ（2015年2月16日、ドイツのミュンヘン）

8. 在韓被爆者健康相談事業への協力

この事業は、長崎県と長崎市が国の在外被爆者支援事業の一環として、在韓被爆者の健康相談と健康指導を行うために2004年度から始めたもので、半年に1回実施されて

いる。2014年度は、春田大輔長崎臨床研究部研究員が医師団員として、第21回（2014年6月15-20日、ソウル）と第22回（2015年2月1-6日、大邱）の在韓被爆者健康相談に参加した。

9. ポールスタラディン臨床大学病院等関係

厚生労働省の国際交流調査研究事業として、林 奉権放射線生物学／分子疫学部副部長、吉田健吾同部研究員および天満恵一事務局総務課課長補佐が2014年10月11から17日の日程で、ラトビアのリガにあるポールスタラディン臨床大学病院およびその他関係機関を訪問し、過去に放影研で研修を受けた人たちの研修効果を調査するとともに、ラトビアのチェルノブイリ原発事故後の処理者に対する放射線影響に関する共同研究の可能性について打ち合わせを行った。

10. 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）関連

今泉美彩長崎臨床研究部副主任研究員が2014年12月10日から12日まで、韓国のハプチョンで開催されたNASHIM韓国専門家派遣事業のセミナーで講演を行った。

11. その他

Roy E. Shore 副理事長が以下の講演を行った。

- 欧州 EpiRadBio（疫学的放射線生物学）会議でリスク評価向上を目的とした生物試料活用に関する講演（2014年4月27日-5月2日、ポルトガルのリスボン市）
- ICRP-JANUS（日本エヌ・ユー・エス）会議で白内障リスクの疫学調査に関する講演（2014年9月4-6日、東京）
- WHO-NIRS（放射線医学総合研究所）共同シンポジウムで原爆放射線の小児被曝後リスクに関する講演（2014年12月8-9日、東京）

海外からの視察・研修などの受け入れ

2014年度の受け入れ総数は、広島・長崎両研究所を合わせて59人だった（一般見学者を除く）。

【広島 53人】

放射線被爆者医療国際協力推進協議会（HICARE）関連（31人）

1) 韓国関係（24人）

2014年6月12日に在韓被爆者医療短期研修団研修生4人、同年10月1日に韓国放射線被爆者医療研修団研修生

14人、同年10月23日に韓国被爆者医療研修団研修生6人を受け入れた。

2) 米国関係（3人）

2014年7月10日に研修生1人、同年11月11日に研修生2人を受け入れた。

3) その他（4人）

2014年12月1-26日にラトビアからの研修生1人、2015年2月24日にブラジルからの研修生3人を受け入れた。

国際協力機構（JICA）関連（9人）

2014年11月19日、結核予防会結核研究所「平成26年度MDGs達成を目指した結核菌検査マネージメントコース」において、研修生9人（ケニア、コンゴ、アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、ミャンマー、フィリピン、中国）を受け入れた。

放影研（厚生労働省国際交流調査研究事業）関連（2人）

2014年11月17日から12月5日にかけて、韓国国立がんセンターの研修生1人、同年12月1から19日まで韓国国立がんセンターの研修生1人を受け入れた。両人とも12月2日から4日は、長崎臨床研究部と長崎大学において研修を受けた。

文部科学省関連（11人）

2015年1月30日、名古屋大学大学院医学系研究科「2014-2015年度ヤング・リーダーズ・プログラム名古屋大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻医療行政コース」において、研修生11人（モンゴル、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、バングラデシュ、アフガニスタン）を受け入れた。

【長崎 6人】

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）関連（6人）

2014年7月23日に2014年度NASHIM研修生6人（ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン）を受け入れた。

長期研修者（1カ月以上）

2014年6月17日-8月17日

Kaitlin Kelly-Reif 米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校環境・職業疫学分野博士課程

日本学術振興会（JSPS）／米国国立科学財団サマー・プログラムの研究奨励制度により、統計部指導の下、広島原爆投下後に実施された初期の放射線調査の測定値に関する地理空間モデリングの研究に関して研修を受けた。研修期間中、爆心地付近や広島市西部の残留放射線について地理統計学的推定を行うとともに、原子爆弾の長期的健康影響についての見識を広め、放射線リスクにおける歴史的、社会的、方法論的課題についての理解を深めた。